

暗唱のすすめ 百人一首編⑭

六十六 もろともに あはれと思へ 山 桜
はな し ひと

花よりほかに 知る人もなし

前大僧正行尊
さぎのだいそうじょうぎようそん

六十七 春の夜の 夢ばかりなる 手 枕 に
はる よ ゆめ たまくら

かひなく立たむ 名こそ惜しけれ

周防内侍
すおうのな いし

六十八 心にも あらでうき世に ながらへば
こころ よ エ

恋しかるべき 夜半の月かな

三条院
さんじょういん

六十九 嵐 吹くみ室の山の もみぢ葉は
あらしふ むろ やま シば

竜田の川の 錦 なりけり

能因法師
のういんほうし

七十 さびしさに 宿を立ち出でて
やど た い て

ながむれば いづこも同じ 秋の夕暮れ
ズ おな あき ゆうぐれ

良暹法師
りょうぜんほうし